ONKYO®

SE-U33GXV

USBデジタルオーディオプロセッサー

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

目次

ご使用になる前に

接続

いろいろな再生

アプリケーションソフト DigiOnSound5 L.E.を使う

DigiOnSound5 L.E.を使ってパソコンに録音する

その他

主な特長

■ フォノイコライザー内蔵でレコードプレーヤーを直接接続

アナログ入力（INPUT　L/R）端子には本格的なフォノイコライザーを内蔵していますのでMM（Moving Magnet）方式のレコードプレーヤーを直接接続することができ、簡単に貴重なレコードの音源をパソコンに録音することができます。PHONO端子とLINE IN端子の切り換えが可能なため、フォノイコライザー内蔵タイプのレコードプレーヤーでもそのまま使用できます。また、従来のようにカセットデッキやミニコンポ、ラジカセなどのオーディオ機器との接続も可能です。

■ USB接続で簡単接続、ノイズレスの高品位な音楽再生

Windows標準のUSBオーディオドライバで動作しますので、面倒な設定もなくパソコンとUSBケーブル1本で接続するだけで簡単に使うことができます。また、バスパワーで駆動するためアダプターも必要なく、ノートパソコンと共に持ち運んでどこでも気軽に使うことができます。USB接続のためパソコン内部のノイズに影響されることなくハイクオリティな音質でパソコン内の音楽を再生できます。

■ 24bit/96kHzの信号処理対応＆録音/再生とも高SN比を実現

24bit/96kHz信号処理に対応し、D/Aコンバータ、A/Dコンバータにそれぞれ専用チップを採用することで音楽再生時のSN比110dBを実現。A/DコンバータにはSN比101dBの高性能なサウンドチップを採用し再生音質はもちろん録音時のクオリティも大幅に向上させています。

■ ジッター値を大幅に低減する内部水晶クロック同期

従来のUSBオーディオ機器ではパソコンのクロックに同期させていたため信号伝達の時間的ズレで生じるノイズ、ジッター（波形の揺らぎ）値が通常のオーディオ機器の数十倍になっていました。SE-U33GXVでは2個の水晶クロックを本体内部に持つことでこのジッター値を大幅に低減、通常のオーディオ機器に匹敵する高品位サウンドを実現しています。

■ デジオン社「DigiOnSound5 L.E.」をバンドル

初心者にやさしい日本語コマンドで、貴重なアナログ音源の保存をはじめ、手軽に録音・編集作業が楽しめる国産サウンド編集ソフトです。もちろんレコードやカセットのノイズを除去できる各種ノイズリダクション機能や多彩なエフェクト機能を搭載。また、新機能のエフェクトランチャーから豊富なエフェクト機能をアイコン化されたランチャーボタンから呼び出すことができます。さらには非破壊編集にも対応しています。

■ デジタル音楽データの音質を飛躍的に向上するVLSC®

独自開発のVLSC®は、一般的なロー・パス・フィルターでは完全に除去することができなかったパルス性ノイズを全く含まず、滑らかな音楽信号を生成することで、MP3などの圧縮音源はもちろんデジタル音楽の再生音質が飛躍的に向上しています。

■ 新開発AUDIOコンデンサーを搭載

オーディオ信号用に新開発されたコンデンサーは様々な要因から発生する音楽信号に影響のあるノイズ成分の排除を行う重要な役割を担っています。SE-U33GXVでは従来よりもさらに性能向上した高品位AUDIOコンデンサーを回路の最重要部に搭載しています。

■ 高品位な音楽の録音・再生を実現する「録音専用モード」と「再生専用モード」

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意	感電注意
⊘記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止	ぬれ手禁止
●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。	プラグをコンセントから抜く	必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐにUSBケーブルを抜く

USBケーブルを抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにUSBケーブルを抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は接続コードをはずす

USBケーブルを抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

使用上のご注意

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ 長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

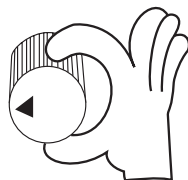
■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

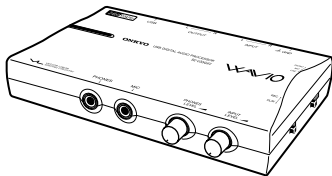
■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

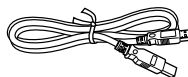
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

箱を開けたら、まず

ご使用の前に箱の中身をお確かめください。［　］内の数字は数量を表しています。

- SE-U33GXV（本体）［1］

- SE-U33GXV CD-ROM〈Windows版〉（DigiOnSound5 L.E.）［1］

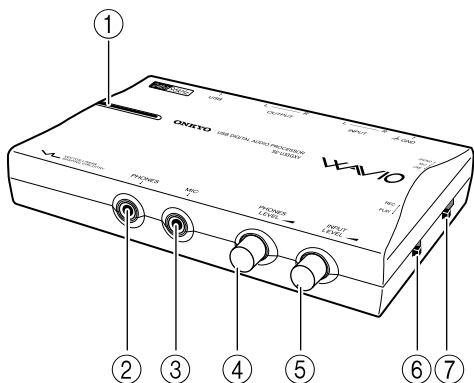
- **オーディオ用ピンコード（80cm）［1］**
  アナログ音声を送るコードです。

- **USBケーブル（1m）［1］**
  パソコンと接続するケーブルです。

- **取扱説明書［本書1］**
- **オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内［1］**
- **保証書［1］**
- **ユーザー登録カード［1］**

ご注意

- CD-ROMを開封する前に、必ず「ソフトウェア使用許諾契約について」（→26ページ参照）をお読みください。
- カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。

各部の名称と働き

前面、横面、上面

① **USB（ユーエスビー）インジケーター[18]**
USBケーブルで本機とパソコンを接続すると点灯します。点滅している場合、現在の切換スイッチの位置ではご使用できない状態です。一度USBケーブルを外してください。

② **PHONES（フォーンズ）端子[17]**
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。PHONES LEVELつまみで音量を下げてから接続してください。

③ **MIC（マイク）（マイク入力）端子[17]**
ミニプラグのモノラルマイクを接続します。INPUT LEVELつまみで音量を下げてから接続してください。

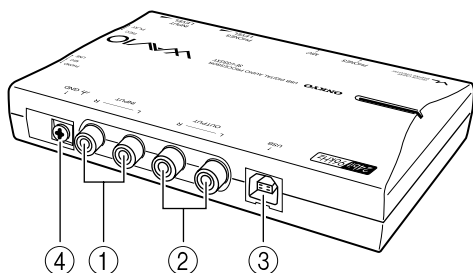
④ **PHONES LEVEL（ヘッドホンレベル調整）つまみ[17]**
ヘッドホンを接続しているときにヘッドホンの音量を調整します。

⑤ **INPUT LEVEL（入力レベル調整）つまみ[19、37]**
録音するときに入力レベルを設定します。

⑥ **PLAY（プレイ）/REC（レック）切換スイッチ[19、22]**
PLAY：再生専用モードです。USB接続しているパソコンの音声をよりよい音で楽しみたいときにこのモードにします。
REC：録音専用モードです。INPUT端子またはMIC端子に接続している機器の音声を再生するときや録音するときにこのモードにします。

⑦ **入力切換スイッチ[19]**
PHONO（フォノ）：INPUT L/Rに接続した機器がフォノイコライザーの内蔵されていないレコードプレーヤーの場合にこの位置にします。
LINE（ライン）：INPUT L/Rに接続した機器がカセットデッキやCDプレーヤーのアナログ出力、フォノイコライザーを内蔵しているレコードプレーヤーなどの場合にこの位置にします。
MIC（マイク）：MIC端子に接続したマイクからの音声をパソコンに録音するときにこの位置にします。

入力を切り換えるときは、INPUT LEVELつまみで音量を下げてから切り換えてください。

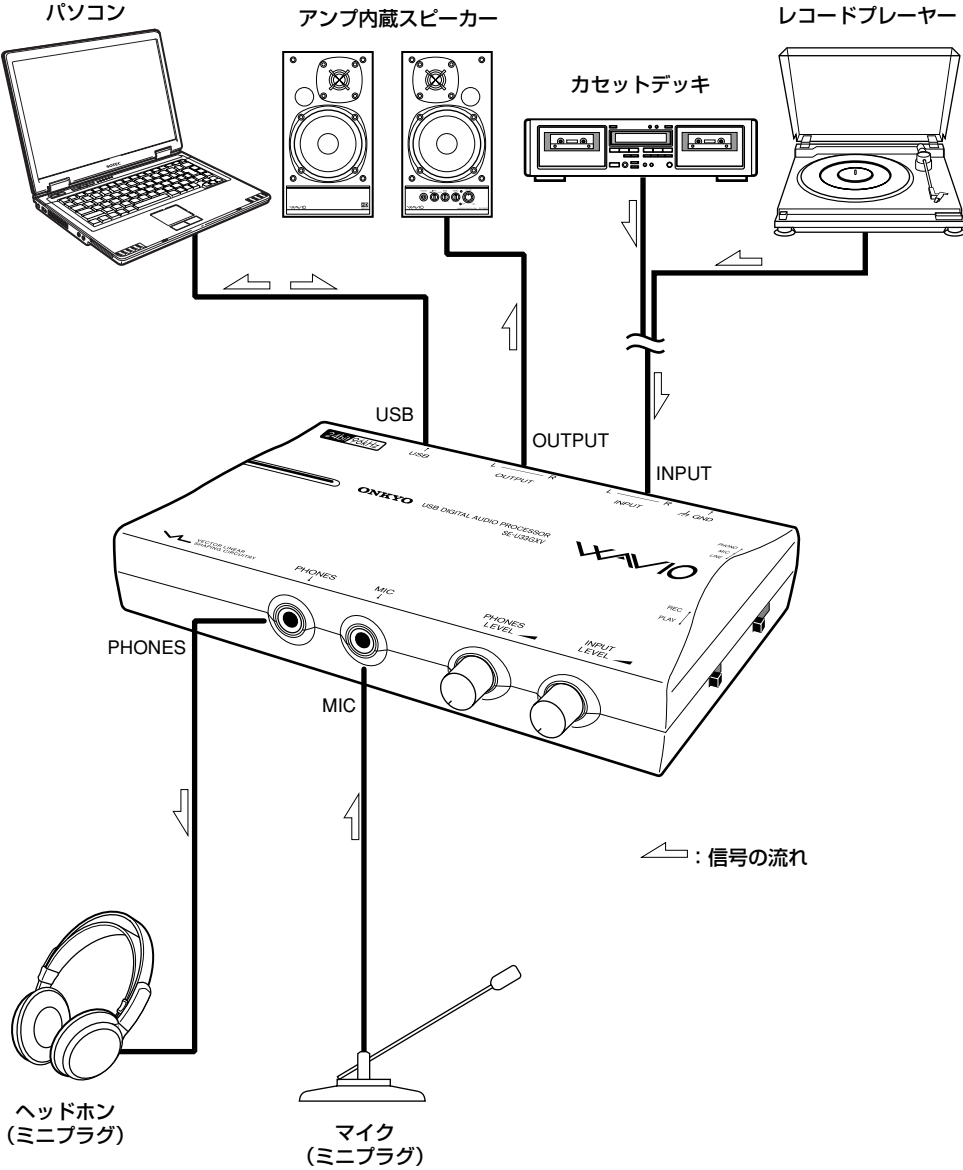
後面

① **ライン入力端子（INPUT L/R）[15、16]**
カセットデッキやレコードプレーヤーなど、オーディオ機器のアナログ出力を接続します。

② **ライン出力端子（OUTPUT L/R）[15]**
アンプ内蔵スピーカー等を接続します。

③ **USBポート（USB）[10]**
パソコンのUSB端子と接続します。

④ **GND（グランド）端子[16]**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

本機の接続例

パソコン
アンプ内蔵スピーカー
レコードプレーヤー
カセットデッキ
USB
OUTPUT
INPUT
ONKYO
USB DIGITAL AUDIO PROCESSOR
SE-U33GXV
VECTOR LINEAR SHAPING CIRCUITRY
PHONES
MIC
PHONES LEVEL
INPUT LEVEL
GND
REC
PLAY
PHONO
MIC
LINE
：信号の流れ
ヘッドホン
（ミニプラグ）
マイク
（ミニプラグ）

パソコンの接続を始める前に

動作環境

対応機種
USB規格Rev.1.1に準拠したUSBポート標準装備のPC/AT互換機（Intel製USBホストコントローラー推奨）
本機は24bit/96kHzに対応しているため、USBバスの帯域を広く使用します。USBケーブルは直接パソコンのUSBポートに接続してください。
画面解像度1024×768ピクセル以上、High Color以上

OS （32 ビット版）
Windows Vista®、Windows® XP*SP2 以降日本語版
* システム管理者権限（Administrator ）でのみ使用可能です。
※ 64 ビット版には対応していません。

CPU
Intel® Pentium® III 800MHz以上※（Pentium4 1.4GHz以上推奨）
※ DigiOnSound5 L.E.でクラックルノイズ除去を行う場合はPentium III 1GHz以上、エフェクター機能でプレビューを使用する場合は、さらに高速のCPUを推奨します。

ハードディスク必要容量
インストール時400MB以上
※ 音声データのデータサイズが大きいため、作業領域と保存用に数百MBの空き容量のあるハードディスクをお勧めします。
※ お使いのハードディスクのフォーマット形式や確保容量などにより、必要容量は多少異なります。

メモリ
Windows Vista　　1GB以上
Windows XP　　256MB以上

必要周辺機器

CD-ROMドライブ（または相当品）＋ハードディスク必須
CD-ROMドライブは付属のソフトウェアをインストールするために必要です。

Windowsについて

Windows日本語版が現在の状態で正しく起動できることを確認してください。

必要な動作環境を満たすパソコンであっても、パソコンシリーズ固有の設計仕様やお客様の使用環境の違いにより、本機の動作が正常に行われない機種があります。
本機の制限事項や動作確認情報についての詳細は、弊社ホームページ（http://www.jp.onkyo.com/wavio/）にてご確認ください。

本機をお使いいただくにあたって

本機をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。
- 本書は、特に断りのない限り、Windows Vistaの操作をもとに書かれています。
- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本機を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本機の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。

パソコンの接続と設定

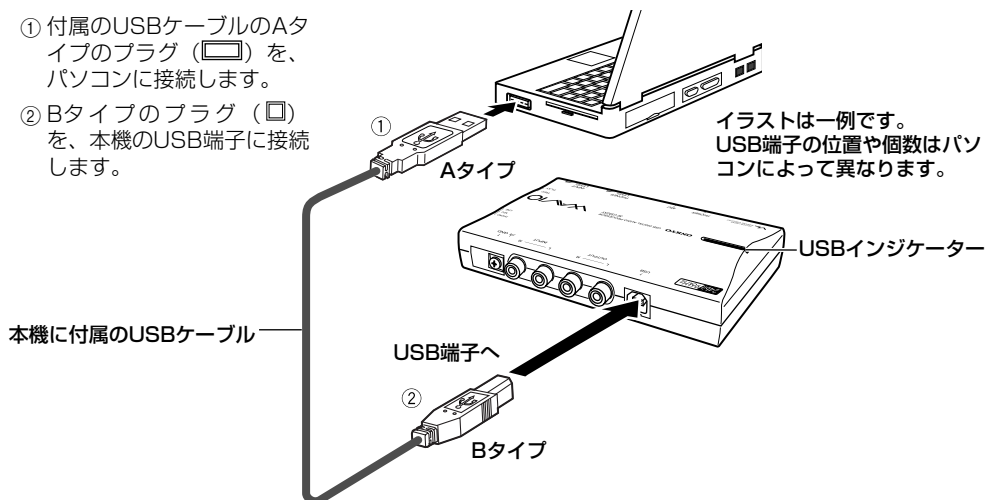
パソコンとUSB接続する

1 パソコンの電源を入れる

起動していることを確認してください。

2 USBケーブルをパソコンに接続し、もう一方を本機に接続する

USBケーブルを抜き差しするときは、接続しているスピーカーやヘッドホンの音量を下げてから行ってください。

① 付属のUSBケーブルのAタイプのプラグ（▭）を、パソコンに接続します。
② Bタイプのプラグ（□）を、本機のUSB端子に接続します。

本機を初めてパソコンに接続すると、Windowsが自動的に新しいハードウェアを認識し、必要なドライバソフトウェアのインストールが始まります。しばらくお待ちください。

ヒント

- パソコンに直接接続するようにしてください。また、パソコン側にUSB端子が2つ以上あるときはどの端子に接続しても構いませんが、次に別のUSB端子につないだときに、再度インストールが始まる場合があります。
- もしもインストールが進まない場合は、USBケーブルを抜き、15秒ほど待って再度USBケーブルを接続してください。それでもインストールが始まらない場合は、次の操作をしてください。

＜Windows Vistaの場合＞

1. 「スタート」→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」を開きます。
2. 「デバイスマネージャー」をクリックします。
3. 「ユーザーアカウント制御」が表示されるので「続行」をクリックします。

＜Windows XPの場合＞

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「システム」をクリックします。
4.「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
5.「デバイスマネージャー」をクリックします。

以上の手順でインストールが始まりますので、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。

- お客様のパソコンの環境によっては、USBケーブルをパソコンの他の端子に差し替えると、ドライバの再インストールを要求されることがあります。手順に従ってもう一度ドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールを確認する

1 システムのプロパティからデバイスマネージャを開きます。

＜Windows Vistaの場合＞

1.「スタート」→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」を開きます。
2.「デバイスマネージャー」をクリックします。
3.「ユーザーアカウント制御」が表示されるので「続行」をクリックします。

＜Windows XPの場合＞

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「システム」をクリックします。
4.「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
5.「デバイスマネージャャ」をクリックします。

2 以下のデバイス名があることを確認します。

「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の「+」をクリックする

- SE-U33GXV Audio

「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の「+」をクリックする

- USB複合デバイス

※ 画面は、パソコンの設定や状況によって順番等が異なる場合があります。

ご注意

お使いのパソコンの仕様やオペレーティングシステムによっては、実際に表示されるデバイスリストが上記の画面と多少異なります。
「USBコントローラ」の下に「不明なデバイス」と表示されている場合は、本機からUSBケーブルを外し、もう一度接続し直してチェックしてください。それでも認識されない場合は、リストから「不明なデバイス」を削除し、USBケーブルを取り外し、もう一度接続します。それでも認識されない場合は、パソコンが不安定になっている場合があるので、パソコンを再起動し、USBケーブルを接続し直してから「不明なデバイス」をリストから削除します。それでもまだ動作しない場合はパソコン側に問題がある可能性があるので、パソコンの販売店にご相談ください。

オーディオデバイスを確認する

＜Windows Vistaの場合＞

1 オーディオデバイスを確認するパネルを開きます。

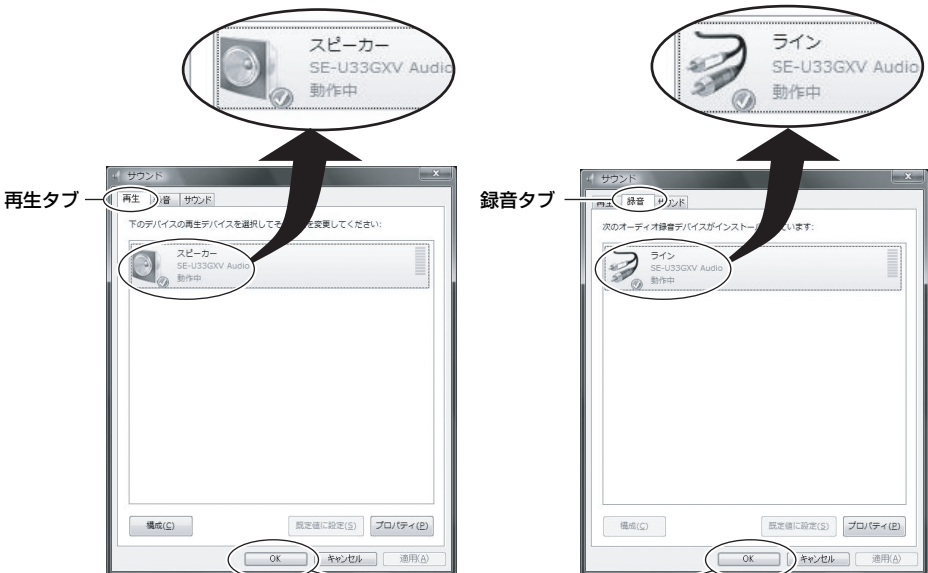
1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3.「オーディオデバイスの管理」をクリックします。

2 「再生」タブを選択します。

3 「スピーカー SE-U33GXV Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。

4 「録音」タブを選択します。

5 「ライン SE-U33GXV Audio」にチェックがついていることを確認します。異なる場合は選択し「既定値に設定」をクリックしてください。

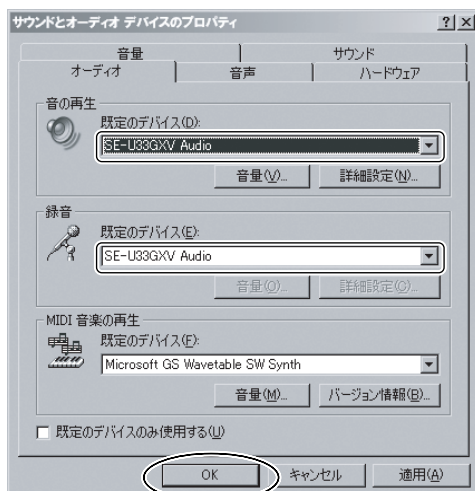
6 「OK 」をクリックします。

<Windows XPの場合>

1 オーディオデバイスを確認するパネルを開きます。

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
4.「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウを開きます。

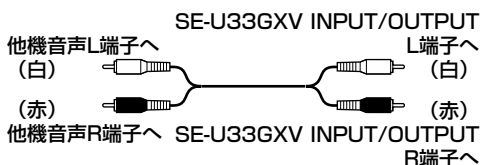
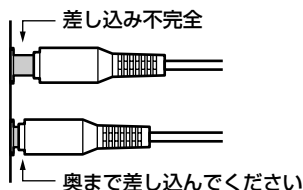
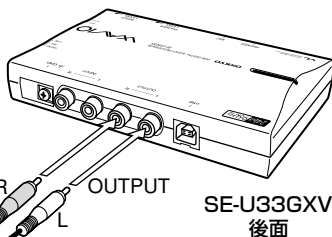
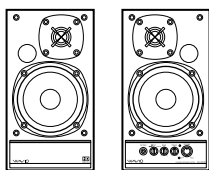
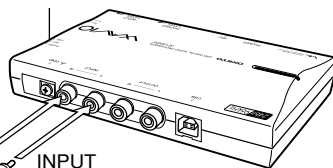
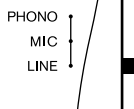
2「オーディオ」タブを選択します。

3「音の再生」の「既定のデバイス」が「SE-U33GXV Audio」になっていることを確認します。異なる場合は変更してください。

4「OK」ボタンを押します。

確認したら、「OK」を押して閉じる

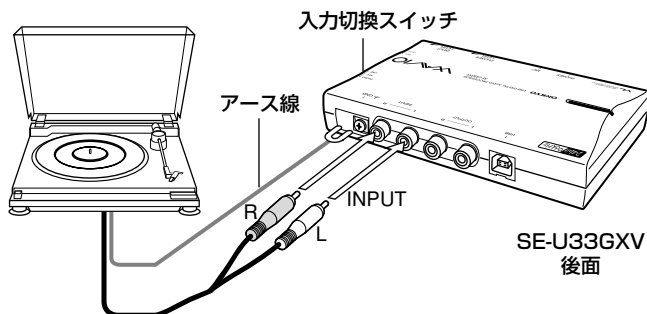
オーディオ機器を接続する

〈接続する前に〉

- オーディオ用ピンコードは、次のように接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

アンプ内蔵スピーカーを接続する

カセットデッキを接続する

1. 入力切換スイッチを「LINE」の位置にします。
2. カセットデッキの接続コードを本機のINPUT L/R端子に接続します。

レコードプレーヤーを接続する

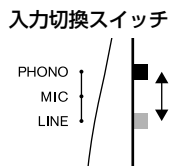
本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

1. INPUT LEVELつまみで音量を下げておきます。

2. 入力切換スイッチをレコードプレーヤーのタイプに合わせて設定します。

フォノイコライザーを内蔵していない場合：「PHONO」の位置にします。
フォノイコライザーを内蔵している場合：「LINE」の位置にします。

入力切換スイッチ

3. レコードプレーヤーの接続コードを本機のINPUT L/R端子に接続します。

4. アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。

フォノイコライザーを内蔵しているかどうかわからない場合は、入力切換スイッチをLINEの位置にして再生してみてください。INPUT LEVELつまみで音量を上げても音が小さい場合はいったん音量を下げてから、入力切換スイッチをPHONOの位置にしてください。

ご注意

- レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機のINPUT L/R端子を接続します。
- 入力切換スイッチをPHONOに切り換えるときは、スピーカーの音量を絞ってから切り換えてください。音量の大きいままですと、過大入力によりスピーカーを破損する恐れがあります。

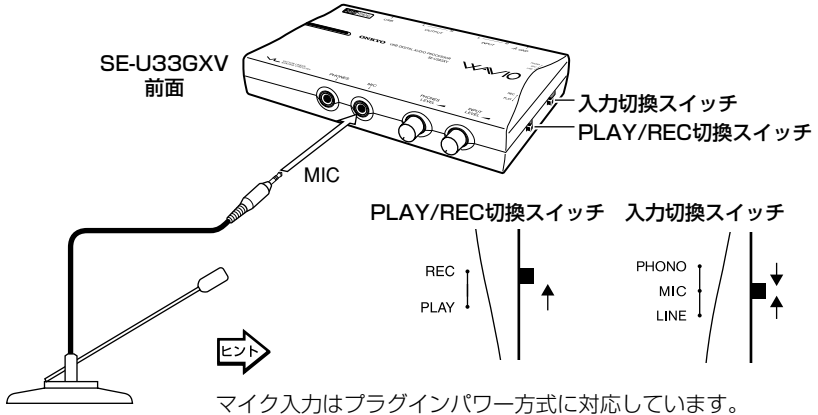
マイクを接続する

他のポジションから切り換える前に一度USBケーブルを抜きます。

1. 入力切換スイッチを「MIC」の位置にします。

2. PLAY/REC切換スイッチを「REC」側にします。

3. モノラルマイクのミニプラグを本機前面のMIC端子に接続します。

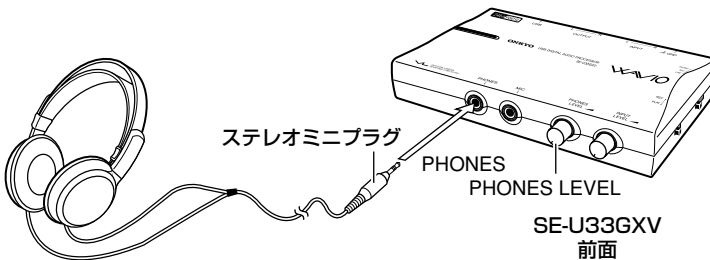
マイク入力はプラグインパワー方式に対応しています。

再び他のポジションに切り換える際は一度USBケーブルを抜いてください。

※ USBケーブルを抜く前に再生・録音中のアプリケーションは終了させてください。

ヘッドホンを接続する

1. ヘッドホンのステレオミニプラグを本機前面のPHONES端子に接続します。

2. PHONES LEVELつまみでヘッドホンの音量を調整します。

ご注意

ヘッドホンを接続しても、ライン出力端子への音声は出力されます。

切換スイッチの使い方

SE-U33GXVではPLAY/REC切換スイッチおよび入力切換スイッチを使って、接続された外部機器の再生・録音やパソコン音声の再生を切り換えます。

■ 各ポジションの名称と機能は次の通りです。

PLAY/REC 切換スイッチ	入力切換 スイッチ	パソコン音声の 再生	外部機器のモニターと パソコンへの録音	サウンド形式
PLAY	−	○	×	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz 出力のみ
REC	LINE	×	○（LINE入力のみ）	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz 入力のみ
	PHONO	×	○（PHONO入力のみ）	16bit,24bit/44.1k,48k,96kHz 入力のみ
	MIC	○	○（MIC入力のみ）	16bit/48kHz　入出力

■ 入力切り換え時のUSBインジケーター点滅について

入力切換スイッチを操作した後にUSBインジケーターが点滅する場合があります。この現象はPLAY/LINE/PHONOのいずれかのポジションからMICに切り換えた場合、もしくはその逆の操作を行った場合に起こります。

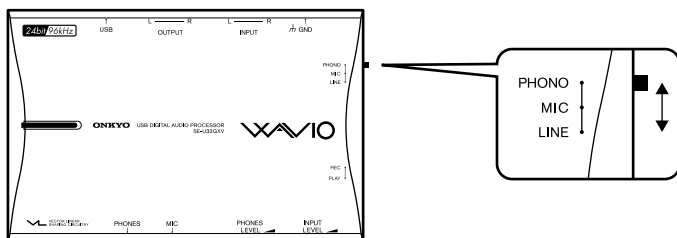
PLAY/LINE/PHONO→→→USBインジケーター点滅→→→MIC

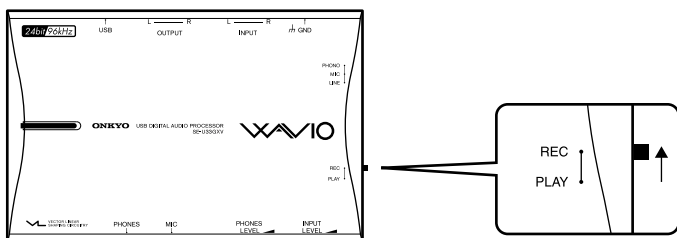
PLAY/LINE/PHONO←←←USBインジケーター点滅←←←MIC

これは入力切り換え後にSE-U33GXVのリセットが必要であることを表していますので、USBインジケーターが点滅した場合は、USBケーブルの抜き差しをしてください。これによりUSBインジケーターは点滅しなくなります。

接続している機器の音声を楽しむ

1 入力切換スイッチを設定します。

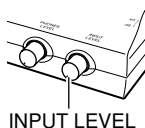
カセットデッキの場合：「LINE」の位置にします。
フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーの場合：「PHONO」の位置にします。
フォノイコライザーを内蔵しているレコードプレーヤーの場合：「LINE」の位置にします。
マイクを使用する場合：「MIC」の位置にします。

ここで設定を間違えると、音が小さすぎたり聞こえなかったりします。

2 PLAY/REC切換スイッチを「REC」側にします。

3 SE-U33GXVに再生機器が正しく接続されているか確認します。（→10ページ参照）

USBインジケーターが点滅するときは一度USBケーブルを抜いてください。

4 機器の再生をはじめます。

5 INPUT LEVELつまみで音量調整をします。

ご注意

過大な入力レベルの状態で長時間使用しないでください。故障の原因となります。

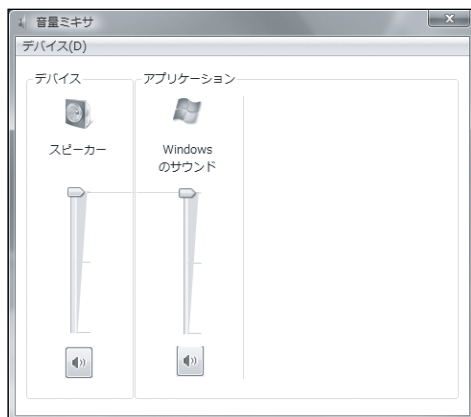
パソコンで再生した音楽ファイルを聞く

ボリュームコントロールの確認

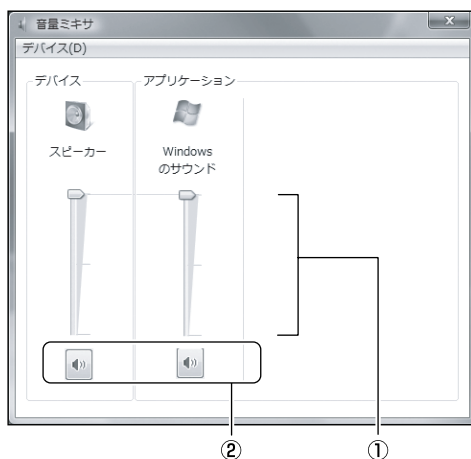
＜Windows Vistaの場合＞

1 ボリュームコントロールを開きます。

お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

1. 「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2. 「ハードウェアとサウンド」をクリックします。
3. サウンドの「システム音量の調節」をクリックします。
4. 「デバイス」→「スピーカー（SE-U33GXV Audio）」を選択します。

2 調整します。

① **音量スライダー**
再生ボリュームをお好みの位置にしてください。

② **ミュート**
再生の音声を消すときはミュートボタンをクリックしてください。ミュートボタンの表示が → に換わります。もう一度クリックすると表示は → に戻り再び音声が出力されます。

<Windows XPの場合>

1 ボリュームコントロールを開きます。

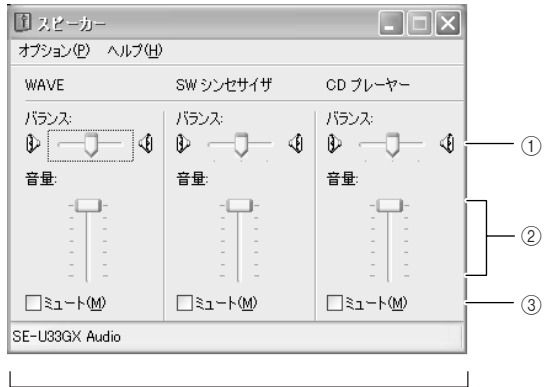
お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
4.「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウで、「オーディオ」タブを選択します。
5.「音の再生」の「音量」をクリックします。

2 調整します。

① **バランス**
左右の出力バランスを変更します。

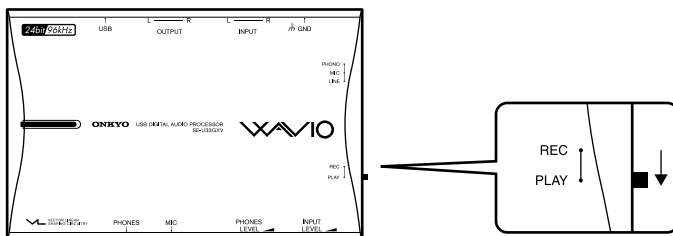
② **音量スライダー**
再生ボリュームをお好みの位置にしてください。

③ **ミュート**
再生の音声を消すときはチェックボックスにチェックをつけます。

ボリュームコントロールは、「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」でも開くことができます。

パソコンで再生した音楽ファイルを聞く

パソコンに保存してある音楽ファイルを聞く

元からパソコンに保存してあった音楽ファイルやDigiOnSound5 L.E.のサンプルファイル、また、36～42ページの方法で作成した音楽ファイルなどを聞いてみましょう。パソコンのDVD/CD-ROMドライブでCDやDVDを再生することもできます。その場合は24ページの設定を行ってください。

1 PLAY/REC切換スイッチを「PLAY」側にします。

2 SE-U33GXVとパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか確認します。（→10ページ参照）

正しく接続されていると、SE-U33GXVのUSBインジケーターが点灯します。
点滅する場合は一度USBケーブルを抜いてください。

3 スピーカーで聞く場合は、SE-U33GXVにアンプ内蔵スピーカーを接続します。（→15ページ参照）
ヘッドホンで聞く場合は、ヘッドホンをSE-U33GXVのPHONES端子に接続します。（→17ページ参照）

ご注意

- SE-U33GXVに入力された音声はSE-U33GXVのOUTPUT端子から出力されます。サウンド機能を実装済みで直接パソコン本体にスピーカーが接続されているような場合、SE-U33GXVに入力された音声をそのスピーカーでモニターすることはできません。
- USBケーブル以外の接続をするときは、接続する機器の電源を切ってから行ってください。

4 DigiOnSound5 L.E.やWindowsに付属のMedia Playerで再生します。
DigiOnSound5 L.E.を使用する場合：

Ogg Vorbis、WMA、WAVEなどを再生することができます。
DigiOnSound5 L.E.をインストールした場合は、サンプルのサウンドファイルがハードディスクに保存されます。サンプルファイルの保存場所は、DigiOnSound5 L.E.をインストールしたハードディスク（通常はCドライブ）の「Program Files」→「DigiOn」→「DigiOnSound5 LE」の下の「SoundLibrary」フォルダ内にあります。

1. DigiOnSound5 L.E.を起動します。（→32ページ参照）
2. ［ファイル］メニューから［開く］を選択して［開く］画面を表示させます。

3. 「ファイルの場所」で再生したい音楽ファイルを選択します。DigiOnSound5 L.E.のサンプルファイルを聞くときは「SoundLibrary」フォルダを選択します。

   CDを聞くときは「Audio CD」を選択します。

4. 音楽ファイルを選択します。ここで［プレビュー］ボタンをクリックすると、そのファイルが再生され、ファイルの中身を確認することができます。

5. ［開く］ボタンをクリックします。すると、マルチトラックウィンドウが新規に作成され、トラック1に波形が表示されます。再生や停止などの操作は、コントローラー画面で行います。

6. 音量調整は、ミキサーコントロール画面の「Master Volume」スライダーを上下させて調整します。

操作に関する詳細は、DigiOnSound5 L.E.のヘルプをご覧ください。（→34ページ参照）

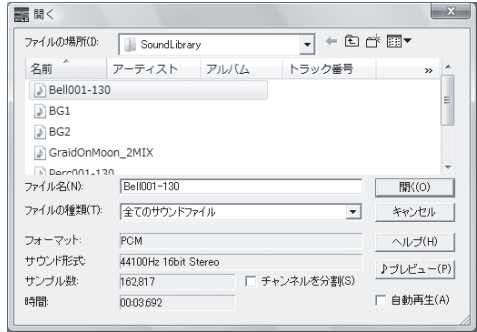
Windows Media Playerを使用する場合：

MP3、WAVE、WMAなどを再生することができます。

1. <Windows Vistaの場合>

   ［スタート］→［すべてのプログラム］をポイントし、［Windows Media Player］をクリックします。デスクトップのショートカットアイコンをクリックして起動することもできます。

   <Windows XPの場合>

   ［スタート］→［すべてのプログラム］→「Windows Media Player」と選択してWindows Media Player画面を表示させます。

※画面は、Windows Media Player 11です。

音量スライダー

2. ［ファイル］メニューから［開く］を選択して［ファイルを開く］画面を表示させます。

3. 「ファイルの場所」で再生したい音楽ファイルを選択します。

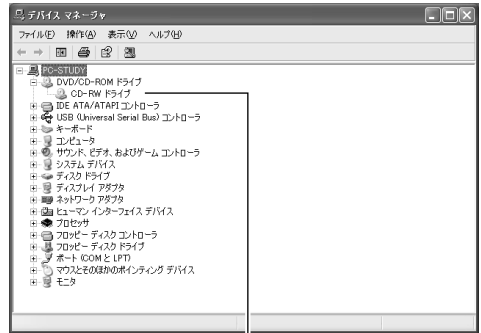
4. 音量スライダーで音量を調整します。

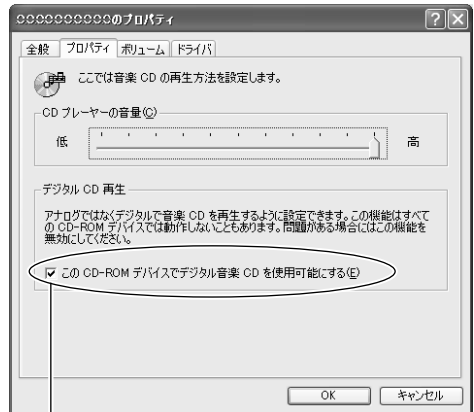
操作に関する詳細は、Windows付属のドキュメントまたはヘルプをご覧ください。

音楽CDを再生するための設定をする

この操作は、Windows XP の場合のみ必要です。

1 「マルチメディアのプロパティ」画面（もしくは「DVD/CD-ROMドライブのプロパティ画面」）を開きます。

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「システム」をクリックします。
4.「システムのプロパティ」ウィンドウで、「ハードウェア」タブを選択します。
5.「デバイスマネージャ」をクリックします。
6. 音楽CDを再生するCD-ROMドライブをダブルクリックし、「プロパティ」タブを選択します。

2 「このCD-ROMデバイスで･･･」にチェックマークを入れます。

3 ［OK］をクリックします。

付属のCD-ROMを使う

DigiOnSound5 L.E.の特長

■ **あらゆるソースをデジタル録音。レコード、カセットもデジタルメディアに**
アナログ入力でレコードやカセットテープを録音できます。また、クラックルノイズやヒスノイズ、ハムノイズを強力に除去。古いアナログ音源も美しく記録します。

■ **ステレオ対応トラックでステレオベースの編集作業が楽々**
1トラックで2チャンネルステレオの編集に対応しました。これにより、ステレオベースでの編集作業が非常に楽に行えます。

■ **非破壊編集でノンストレス**
非破壊型エンジンは、編集の際にはデータの書き換えを行わないため、編集の結果を瞬時に確認することができます。実際のデータの書き換えは、編集終了後、ファイルに保存する際に同時に行われるため、ほとんどストレスを感じることなく編集作業を行うことができます。

■ **リアルタイムにプレビューできる、充実したエフェクト・フィルター**

■ **新しく追加されたエフェクトランチャー**
充実したエフェクト・フィルター機能をアイコン化されたエフェクトランチャーから呼び出すことができます。

■ **Ogg Vorbis、WMA 9、MP3、mp3PRO対応。最新フォーマットで保存**

■ **オートメーション機能搭載。ボリューム・パンの動きを記録・再編集**
ボリューム・パンの動きを記録、再現することができます。この機能を活用することで、同じ効果をさまざまな場所で再現させたい場合などに高い作業効率を実現します。

※ 動作環境については、9ページをご覧ください。

DigiOnSound5 L.E.使用上のご注意

デジタルカメラなどから映像データを直接読み込むことはできません。ビデオソフトなどで読み込み可能なファイル形式に変換してから読み込んでください。ビデオトラックの編集を行うことはできません。

ソフトウェア使用許諾契約について

本ソフトウェアをセットアップ（インストール）する前に必ずお読みください。
本ソフトウェアをセットアップ（インストール）すると、本契約の内容を承諾したことになります。
本契約の内容に同意できない場合は、本ソフトウェアのセットアップ（インストール）を行わないでください。

使用許諾契約書

本使用許諾契約書（以下、「本契約書」）は、株式会社デジオン（以下、「弊社」）が提供するソフトウェアに関する使用条件を定めるものです。

第1条（定義）

1. 「本ソフトウェア」とは、本契約書とともに提供されるソフトウェア（製品名「DigiOnSound5 L.E.」ライセンス数1）を指します。また、音素材、ビデオ素材、静止画素材、チュートリアルファイル、ヘルプファイルなどの使用方法を説明したデータなどがソフトウェアに付属し提供される場合は、これらのデジタル情報の一部または全部も含めます。なお、本ソフトウェアに含まれる第三者の著作権に関しても、本契約書が適用されます。
2. 「関連資料」とは、本契約書とともにマニュアルなどの印刷された資料が提供される場合、これを指します。
3. 「お客様」とは、本契約書とともに提供された本ソフトウェアを含む製品を購入し本契約書に同意いただいた個人または法人を指します。

第2条（使用条件）

1. お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピュータにセットアップ（インストール）してご利用いただけます。
2. お客様のうち特定のただ一人が使用するコンピュータが複数ある場合には、本ソフトウェアを同時に使用しないという条件の下、特定の個人ただ一人が使用するコンピュータに限り複数セットアップすることができます。
3. 本契約書は、本ソフトウェアの不具合修正などの目的で改訂したソフトウェアに対しても適用されるものとします。ただし、改訂されたソフトウェアと改訂前のソフトウェアは同一のコンピュータにセットアップされている場合に限ります。

第3条（制限）

お客様は、下記の項目を行うことはできません。

1. 本契約書に定めのない、複数コンピュータへのセットアップ（インストール）または複製（コピー）
2. 関連資料の複製（コピー）
3. 本ソフトウェアに含まれるプログラムの改変またはカスタマイズ、リバースエンジニアリング
4. 本ソフトウェアの第三者への再配布、再使用許諾
5. 本ソフトウェア（複製物を含む）の貸与（レンタル）、疑似レンタル、中古品としての販売、譲渡
6. 本ソフトウェアをネットワークコンピュータやサーバーから第三者が複製またはダウンロードできる状態にしておくこと
7. 本ソフトウェアを地上波、衛星、ケーブルまたはその他の媒体を利用した放送、インターネット放送、イントラネットなどネットワークを利用した放送、ペイオーディオ、オーディオ・オン・デマンドのアプリケーションによる放送などに利用すること

上記各号の規定は、本ソフトウェアを改訂した製品をご購入した場合にも継続して適用されます。

第4条（保証範囲）

1. 弊社は、本ソフトウェアまたは関連製品に物理的な瑕疵がある場合、お客様がご購入後30日間に限り、弊社の判断に基づき交換いたします。ただし、地震、火災などの天災もしくは戦争による破損またはお客様のご購入後の故意、過失、誤った使用によって生じた破損についてはこの限りではありません。
2. 弊社は、本ソフトウェアの機能がお客様の使用目的と適合することを保証するものではありません。弊社は、本製品の物理的瑕疵について保証するものであり、本ソフトウェアまたは関連資料の使用または使用不能から生ずる直接的または間接的被害については一切責任を負いません。
3. 弊社は、本ソフトウェアを使ってお客様が行ったいかなる行為についても、その責任を負いません。

第5条（期間）

1. 本契約は、本契約が成立した時点、すなわち本ソフトウェアをセットアップ（インストール）した時点に始まり、お客様が本ソフトウェアの使用を停止するまで有効とします。お客様は、本ソフトウェアの使用を停止した時点で、本ソフトウェアおよび関連資料の一切を破棄するものとします。
2. お客様が本契約に違反した場合は、本契約を解除してお客様の本ソフトウェアの使用を停止させることができます。弊社が、本ソフトウェアの停止を通知した場合には、お客様は速やかに本ソフトウェアおよび関連製品の一切をお客様の費用負担で弊社に返却するものとします。

第6条（一般条項）

本契約書に関して生じた紛争については、福岡地方裁判所を第一審の専属的管轄裁判所とします。

付属のアプリケーションソフトをパソコンにインストールする

DigiOnSound5 L.E.をインストールする

付属のCD-ROMに収録されている［DigiOnSound5　L.E.セットアップ］を起動して、インストールを行います。
起動中のアプリケーションをすべて終了させてから、セットアップを開始してください。
［DigiOnSound5 L.E.セットアップ］をする際は、必ず管理者権限で行ってください。

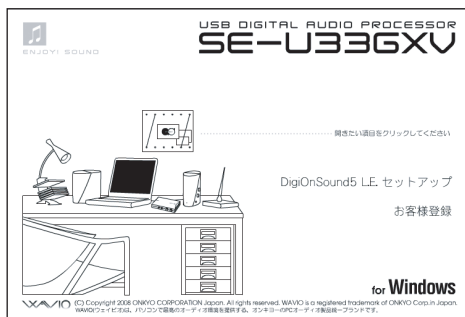
1 ［SE-U33GXV CD-ROM］をCDドライブにセットします。

自動的に画面が表示されます。
画面が表示されない場合は、次の方法で表示させてください。

- **Windows Vista/XP のコントロールパネルを利用する**

＜Windows Vista の場合＞

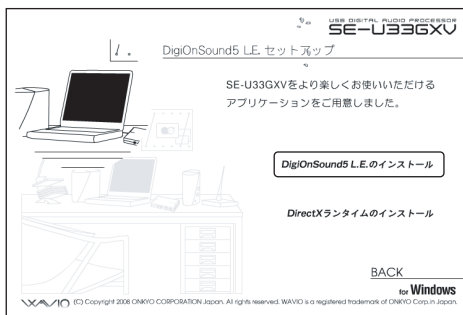
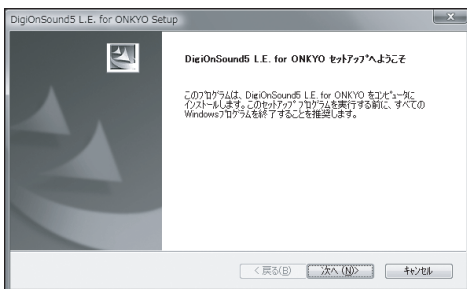
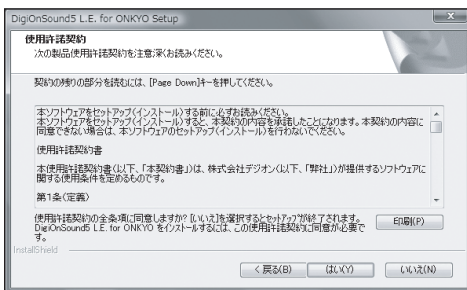
1. CD-ROMをCDドライブにセットすると自動再生ウィンドウが開きますので［menu.exeの実行］をクリックします。
2. ［DigiOnSound5　L.E.セットアップ］ダイアログボックスが表示されます。

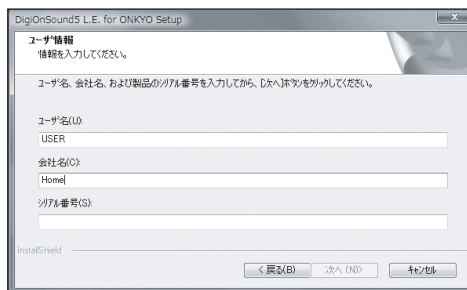
＜Windows XP の場合＞

1. 「コントロールパネル」を表示します。
2. ［プログラム（アプリケーション）の追加と削除］ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
3. ［プログラムの追加］ボタンをクリックします。
4. ［CD またはフロッピー］ボタンをクリックすると、［フロッピーディスクまたはCD-ROM からのインストール］ダイアログボックスが表示されます。
5. ［次へ］ボタンをクリックすると、「インストールするプログラムが見つかりませんでした。」と出るので、［参照］をクリックし、「SE-U33GXV 」CD-ROM 内、「Sound 」フォルダ内の「setup.exe 」を開き、「完了」をクリックします。
6. ［DigiOnSound5 L.E.セットアップ］ダイアログボックスが表示されます。

- **SE-U33GXV CD-ROMを開きセットアッププログラムを起動する**

1. Windowsのエクスプローラを使って、「SE-U33GXV」を開きます。
2. 「menu.exe」アイコンをダブルクリックすると、画面が表示されます。

2 「DigiOnSound5 L.E.セットアップ」ダイアログボックスで［DigiOnSound5 L.E.のインストール］をクリックします。

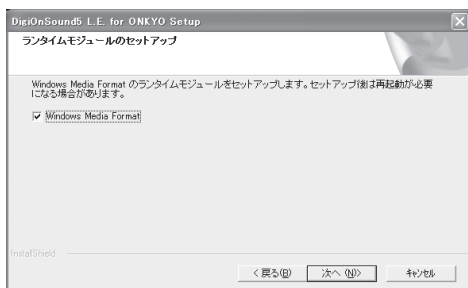
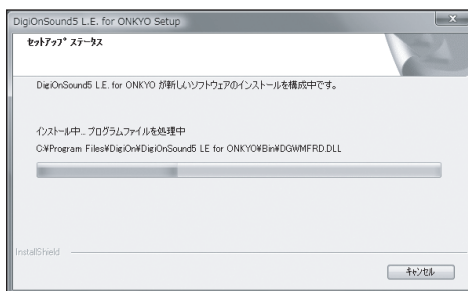
「ユーザーアカウント制御」の画面が出ますが、「許可（A）」を選択します。

3 「ようこそ」ダイアログボックスが表示されますので、［次へ］ボタンをクリックします。

4 「使用許諾契約の確認」ダイアログボックスが表示されますので、内容をよく読み、契約に同意される場合は、［はい］ボタンをクリックします。

5 「ユーザーの情報」ダイアログボックスが表示されますので、「ユーザ名」「会社名」「シリアル番号」を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

シリアル番号欄には次の番号を入力してください。文字および数字をよくご確認のうえ、間違いのないように入力してください。

6 「セットアップするフォルダの設定」ダイアログボックスが表示されます。インストール先を確認し、［次へ］ボタンをクリックします。

インストール先を変更する場合は、「参照」ボタンをクリックして、インストールするフォルダを選択してください。

7 「ランタイムモジュールのセットアップ」ダイアログボックスが表示されるので、「Windows Media Format」のチェックボックスがオンになっていることを確認し、［次へ］ボタンをクリックします。

インストールが開始されます。

Microsoft社の音声圧縮フォーマットであるWMA（Windows Media Audio）をご利用になる場合は、Windows Media Formatのランタイムモジュールが必要になります。WMAファイルは、Windowsに標準装備されているWindows Media Playerで再生可能です。

8 画面には、インストールの進行状況が表示されます。

9 「ショートカットの作成」ダイアログボックスが表示されます。

デスクトップにDigiOnSound5 L.E.ショートカットを作成する場合は、「ショートカットをデスクトップに作成」のチェックボックスをオンにします。
同様に、Windowsのクイック起動にショートカットを作成する場合は、「ショートカットをクイック起動に作成」のチェックボックスをオンにします。
ショートカットが必要ない場合は、チェックボックスをオフにします。

10 インストールが終わると、「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されます。

＜Windows Vista の場合＞
完了ボタンを押すとDigiOnSound5 L.E.が起動します。
＜Windows XP の場合＞
DigiOnSound5 L.E.を使用するには、一度パソコンを再起動させる必要があります。
すぐに再起動を行う場合は「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、［完了］ボタンをクリックします。するとパソコンが再起動します。

あとで再起動を行う場合は、「いいえ、あとでコンピュータを再起動します。」を選択し、［完了］ボタンをクリックします。するとインストールを終了します。

お使いの環境によっては、「DigiOnSound5 L.E. for ONKYOを起動する」と表示されます。これを選択し、［完了］ボタンをクリックすると、DigiOnSound5 L.E.が起動します。

11 ［SE-U33GXV CD-ROM］をCDドライブから取り出します。

以上でセットアップの完了です。

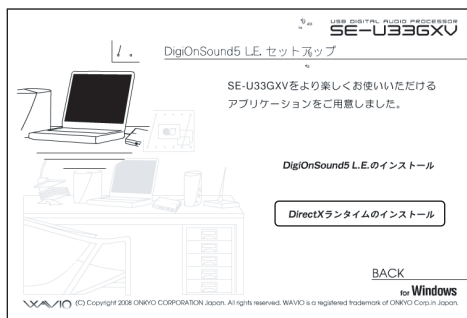
ご注意

他に起動中のアプリケーションがある場合にコンピュータを再起動しますと、すべてのアプリケーションが強制終了されます。そのため、作業中のファイルなどがある場合は、「いいえ、あとでコンピュータを再起動します。」を選択し、他のアプリケーションを終了してから再起動してください。

DirectXランタイムのセットアップ

<Windows Vista の場合>
DirectX ランタイムのインストールは不要です。

<Windows XP の場合>
PCの環境により、DirectX ランタイムのインストールが必要な場合があります。

DirectXは、Microsoft社から提供されるマルチメディア関連の拡張モジュールです。
DigiOnSound5　L.E.は、DirectX8.1以上の環境が必要となります。「SE-U33GXV　CD-ROM」には、DirectX9.0が使えるようにするための「DirectX9.0ランタイム」が同梱されています。

DigiOnSound5 L.E.が必要とするDirectX機能が、お客様のパソコンにインストールされていない場合は、DirectXランタイムをインストールする必要があります。この場合は、DigiOnSound5 L.E.のインストールを行った後に、「SE-U33GXV CD-ROM」から「DirectX ランタイムのインストール」をクリックし、DirectXランタイムセットアップを実行することをおすすめします。

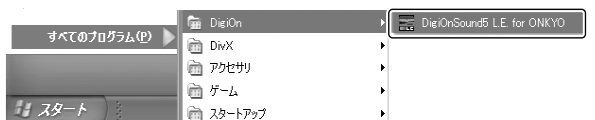
ご注意

ご利用のパソコンに、DirectX9.0より以前のバージョンのDirectXにのみ対応しているソフトウェアがすでにインストールされている場合、そのソフトウェアの動作に問題が発生する可能性がありますので、ご注意ください。

DigiOnSound5 L.E.の使い方

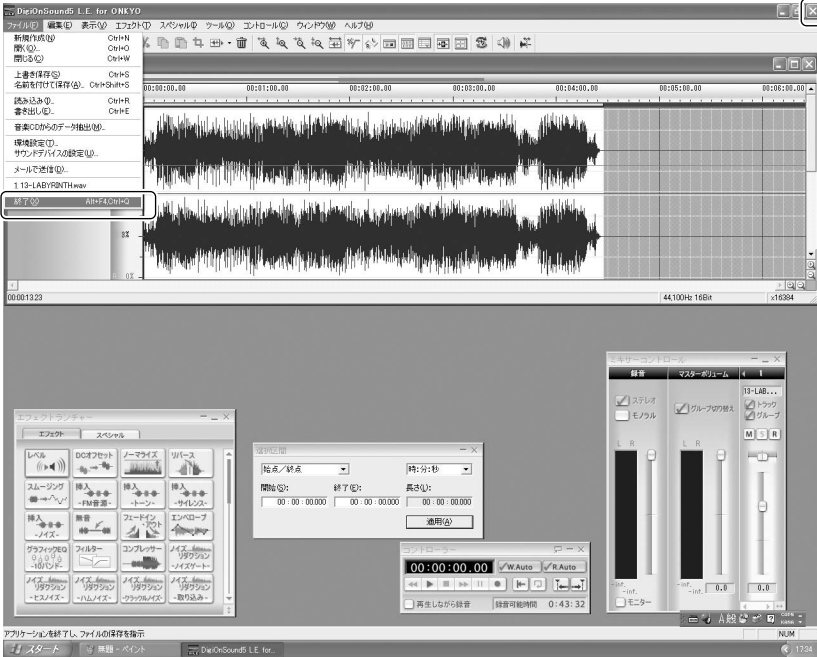
（お断り）
以下DigiOnSound 5　L.E.の説明にて特に必要がない場合はWindows XP による画像を使用しております。Windows Vista でも機能は変わりません。

DigiOnSound5 L.E.を起動する

「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」→「DigiOn」→［DigiOnSound5　L.E. for ONKYO］をクリックすると、DigiOnSound5 L.E.が起動します。

30ページの「ショートカットの作成」ダイアログボックスでチェックを入れていた場合は、次の方法で起動させることもできます。

- ［クイック起動］のショートカットアイコンをクリックします。
- デスクトップ上のショートカット・アイコンをダブルクリックします。

DigiOnSound5 L.E.を終了する

「ファイル」メニューの［終了］を選択します。
また、DigiOnSound5 L.E.の右上にある終了ボタン［×］をクリックしても終了できます。

開いているファイルに変更が加えられている状態でDigiOnSound5 L.E.を終了しようとすると、ファイルを保存するかどうかのダイアログボックスが開きます。

DigiOnSound5 L.E.の使い方

DigiOnSound5 L.E.のヘルプを開く

本書では、SE-U33GXVとDigiOnSound5 L.E.を使って録音することについては36ページ以降に詳しい使用方法を掲載しておりますが、DigiOnSound5 L.E.には他にも多くの機能があります。
すべての機能を本書で説明できませんが、DigiOnSound5 L.E.ソフトウェアの「ヘルプ」では、すべてのコマンドについて説明をしていますので、そちらをご覧になりながら操作を進めてください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」→「DigiOn」→[DigiOnSound5 L.E.] をクリックすると、DigiOnSound5 L.E.が起動します。

2 「ヘルプ」メニューから「目次」を選びクリックします。

3 DigiOnSound5 L.E.のヘルプ(オンラインマニュアル)が起動します。

お知りになりたい項目をクリックしてください。

DigiOnSound5 L.E.をアンインストール（削除）するには

DigiOnSound5 L.E.を使用しなくなった場合や、インストールしなおしたいときなどは、下記の方法でアンインストールしてください。

1 DigiOnSound5 L.E.が起動していないことを確かめます。

起動しているときは、33ページの方法でDigiOnSound5 L.E.を終了してください。

2 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。

3 「プログラムの追加と削除」をクリックします。

4 「DigiOnSound5 L.E.」をクリックします。

5 「変更と削除」をクリックします。

「変更と削除」以外に「追加と削除」、「削除」などが表示される場合もあります。

6 確認のメッセージが出ますので、「OK」をクリックします。

「OK」以外に「はい」が表示される場合もあります。

7 「完了」をクリックします。

「完了」以外に「OK」が表示される場合もあります。

ご注意

Windows　Vistaの場合は「スタート」→「コントロールパネル」→［プログラムのアンインストール］画面にてアンインストールすることができます。

録音のしかた

レコードやカセットテープ、マイクからの音声をSE-U33GXVを通してパソコンに録音、DigiOnSound5 L.E.を使ってノイズの除去等の編集をすることができます。
新しく作成したファイルは、SE-U33GXVに接続したパソコン用スピーカーなどで楽しむことができます。

※ **あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。**

マイクやライン入力のアナログ音声をパソコンに録音する

ご注意

本機ではバランススライダーには対応していません。

1 パソコンにSE-U33GXVが正しく接続されているか確認します。（→10ページ参照）

USBインジケーターが点灯します。

2 アナログ再生させる機器をSE-U33GXV本体に接続し、入力切換スイッチを設定します。（→15～21ページ参照）

3 DigiOnSound5 L.E.を起動します。

インストール後、最初にDigiOnSound5 L.E.を起動したときには、サンプルファイルが自動的に開きます。二回目以降のソフト起動時には、前回終了時に開いていたファイル、およびウィンドウが起動時に開きます。

4 ［ファイル］メニューから［新規作成］を選びます。録音用の空のファイルが開きます。

5 ［ミキサーコントロール］ウィンドウを使って、録音の設定をします。

［ミキサーコントロールウィンドウ］が開いていない場合は、［表示］メニューから［ミキサーコントロール］の項目にチェックを入れてください。

ステレオ（左右が独立した音声）で録音する場合、チェックします。

モノラル（左右が同一の音声）で録音する場合、チェックします。

「ステレオ」と「モノラル」は両方同時にオンすることはできません。

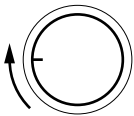
［ミキサーコントロール］ウィンドウの［R（レコード）］ボタンをクリックします。

［モニター］チェックボックスをチェックすると、録音レベルをモニターできます。

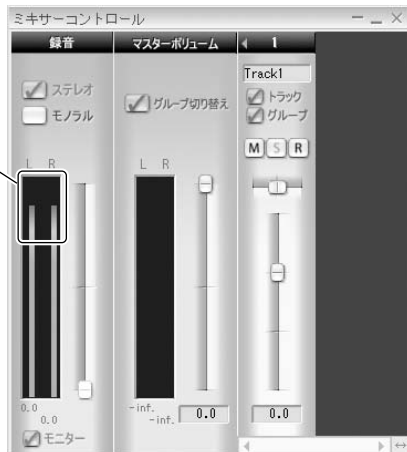
6 接続している機器を再生します。

ミキサーコントロールのレベル表示がアップダウンします。

7 SE-U33GXVのINPUT LEVELつまみで録音レベルを調整します。

「ミキサーコントロール」の画面を見ながら、録音するサウンドの最大レベルが最適となるようにゆっくりと音量を上げてください。

録音最適レベル

ご注意

［モニター］チェックボックスをチェックしても［録音レベルモニター］が振れない場合は、DigiOnSound5 L.E.が外部オーディオの信号を正しく受け取っていません。入出力サウンドデバイスが正しく設定されているか確認してください。

8 録音レベルの調整が終わったら、機器の再生をいったん止めます。

9 ［コントローラー］画面を使って録音します。

［コントローラー］ウィンドウが開いていない場合は、［表示］メニューから［コントローラー］の項目にチェックを入れてください。

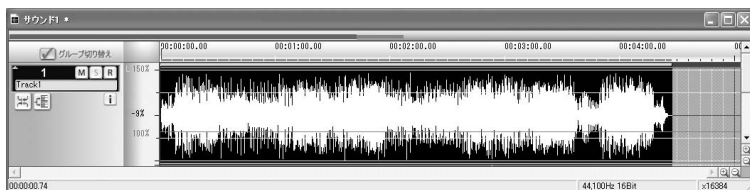
1. ［●（録音）］ボタンをクリックすると、録音待機状態となります。
2. 機器の再生をはじめ、録音したいところで［II（一時停止）］ボタンをクリックすると録音を開始します。

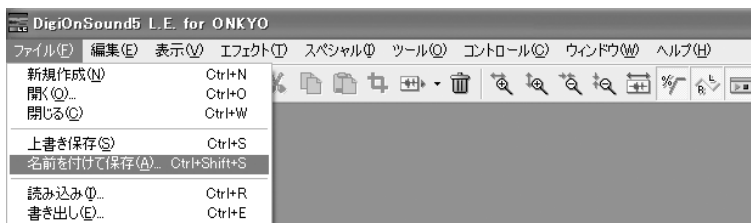
一時停止するには：録音中に［II（一時停止）］ボタンをクリックします。ボタンが押されたポイントで録音が待機状態となり、［II（一時停止）］ボタンをクリックすると再び録音を開始します。

録音を終了するには：［■（停止）］ボタンをクリックします。

ご注意

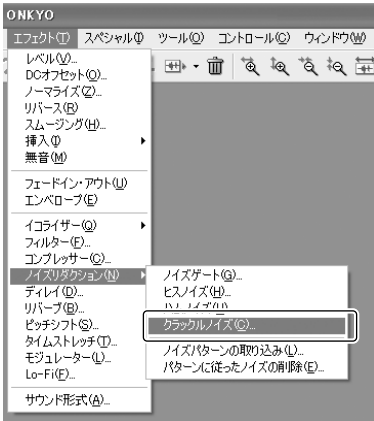
録音中は、PLAY/REC切換スイッチを切り換えないでください。
切り換えた場合、システムが不安定になり、録音できない場合があります。

10 録音が終了すると、トラックに波形データが表示されます。再生して、録音結果を確認してみましょう。

11 引き続き、ノイズ除去をする場合は次のページへ進んでください。

このままファイルとして終了する場合は、「保存」または「書き出し」をします。

「保存」もしくは「書き出し」について詳しくは、40ページをご覧ください。

レコードやテープのノイズを取り去る

これらのノイズは、DigiOnSound5 L.E.内蔵のエフェクト『ノイズリダクション』を使って取り去ることができます。エフェクトランチャーから各『ノイズリダクション』画面を選択することができます。また、従来通りエフェクトメニューから各『ノイズリダクション』画面を選択できます。

1 ［エフェクト］メニューから［ノイズリダクション］→除去したいノイズを選択します。

ノイズゲート
ナレーションのバックグラウンドノイズのように、定常的に発生してしまうノイズを除去するために、一定レベル以下の信号を取り除き、設定したレベル以上の信号のみを再生します。

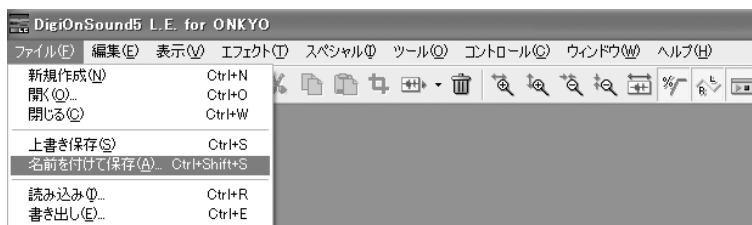
ヒスノイズ
カセットテープなどのアナログソースを再生する時に、無音部分で発生する「シャー」といったノイズを除去します。
ただし、あまり効果を大きくし過ぎると、こもったような音質になってしまう場合がありますので、プレビュー機能を使って音質を確認しながら調整していくとよいでしょう。

ハムノイズ
電源などにより発生する「ブーン」というような低周波ノイズを除去します。
効果を大きくし過ぎると、本来の音の高域成分を損なって音質が変化する場合がありますので注意してください。

クラックルノイズ
［クラックルノイズ］エフェクトは、レコードのプチノイズのような、突発的なノイズを除去するのに適したエフェクトです。［プレビュー］機能を使いながら、効果の大小を確かめて、エフェクトのかけ具合を調節してください。
効果を大きくすると、本来の音の成分を損なって音質が変化する場合があります。

2 画面が開いたら、［効果］スライダーを使ってノイズを低減する度合いを設定します。

［プレビュー］機能を使用すると、効果の大小を確かめてエフェクトのかけ具合を調節することができます。
［OK］をクリックすると、エフェクト処理を実行します。

3 作業が終了したら、「保存」または「書き出し」をします。

「保存」もしくは「書き出し」について詳しくは、41および42ページをご覧ください。

レコードやテープ、ICレコーダーやマイクから録音したノイズを分析し、除去する

取り込み

「ノイズパターンの取り込み」は、サウンドファイルの無音部分(ノイズのみが鳴っている部分)の波形からノイズ成分を解析するエフェクトで後述の「削除」とセットで使用します。

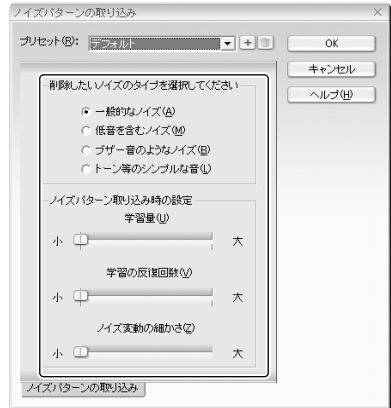
削除

「削除」は「ノイズパターンの取り込み」からの結果を元にノイズを取り除く機能です。前述の「ノイズパターンの取り込み」とセットで使用します。
マイクを内蔵したMDやICレコーダーなどを使って会話や会議・講演または演奏の録音を行なうと、会話や演奏などの目的の音以外にも、空調の音やPCやプロジェクターのファンの音などの生活雑音まで録音されてしまいます。そのようなノイズを学習・分析させて除去することで、目的のサウンドのみをクリアに再生することができます。

[ノイズリダクションー取り込みー]の手順

1 ノイズのみが入っている波形部分を範囲選択します。

2 エフェクトランチャーの[ノイズリダクション―取り込み―]をクリックします。

3 [ノイズパターンの取り込み]画面からノイズ取り込み設定を行ないます。

4 各項目を設定したあと、[OK]ボタンをクリックします。

ノイズパターン取り込みを実行します。

[ノイズリダクション－削除－]の手順

1 トラックウィンドウに表示している波形データに範囲選択をしている場合は、範囲選択を解除します。

2 [エフェクトランチャー]の「ノイズリダクション－削除－」をクリックします。

「パターンに従ったノイズの削除」画面が表示します。

3 ノイズ削除の各設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。

4 ノイズパターンの削除が実行されます。

ご注意

範囲選択を解除しないまま[削除]を行なうと範囲選択された部分のみノイズ成分が削除されます。

「保存」と「書き出し」について

編集結果をセーブする「保存（上書き保存/名前を付けて保存）」と「書き出し」は、似ているようで実際のセーブした結果が異なります。ここでは、セーブの際の「保存」と「書き出し」の違いについて説明します。

「保存（上書き保存/名前を付けて保存）」について

編集したファイル（ドキュメント）を「保存」すると、編集した状態のDigiOnSoundファイルとして保存されます。つまり、保存したファイルは、DigiOnSound形式に対応したソフトでしか扱うことができません。

録音のしかた

編集作業が途中の場合に「保存」しておくと、いつでも同じ状況を再現することができます。また、編集が完了しても、素材として「保存」しておくと、後でファイルを開き、音量バランスやエフェクトに変更を加えた“リミックス”などの作業も行えます。

- **［上書き保存］**を選択すると、同じファイル名のままで編集結果が上書きされます（オリジナルデータはなくなります）。
- **［名前を付けて保存］**を選択すると、新規ファイルとして保存します。オリジナルファイルに編集を加えずに保存しておきたい場合は、必ず［名前をつけて保存］を実行するか、編集ファイルを保存しないで、ファイルを閉じてください。

ご注意

ファイル（ドキュメント）を保存せずに閉じようとすると、"変更内容を保存するかどうか"を聞くダイアログが開きます。名前を変えて保存したい場合は、ここでは［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

「書き出し」について

DigiOnSound5 L.E.で録音・編集したファイルは、「書き出し」でWAVEやWMA、MP3などのサウンド形式に変換することで、他の多くの音楽再生プレーヤーでも再生することができるようになります。
なおファイルの「書き出し」を実行しても、ファイルを「保存」していない場合には、ファイルを閉じる際に“変更内容を保存するかどうか”を聞くダイアログが開かれます。

主な仕様

形式：	USBデジタルオーディオプロセッサー
接続方式：	USB（Universal Serial Bus 1.1）
周波数特性：	0.3Hz～44kHz（＋0/－0.5dB、ライン出力）
SN比：	110dB（A-フィルタ、ライン出力）
ライン出力レベル：	2.0Vrms
ライン入力レベル：	200mVrms
マイク入力感度：	8.5mVrms
フォノ入力感度：	3.0mVrms
フォノ最大許容入力：	1kHz　0.5%　70mVrms
電源：	USB供給
消費電流：	200mA
外形寸法（幅×高さ×奥行）：	137×30×103mm
質量：	0.2kg

※　仕様および外観は予告なく変更することがあります。

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

音声

音声	参照ページ
音声が出ない	
• ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。	P15
• 再生機器は正しく選ばれていますか？入力切換スイッチを再生している機器にしてください。	P15〜19
• INPUT LEVELつまみで音量を上げてください。	P19
ヘッドホンが聞こえない	
• PHONES LEVELつまみで音量を調整できます。それでも聞こえない場合、「音声が出ない」の項を参照してください。	P15、17
左右の音量バランスがかたよっている	
• 接続している外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。	−
音が良くない	
• テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いていると、磁気の影響で雑音がはいることがあります。テレビなどから離して置いてください。	−
• マイクから雑音を拾うことがあります。マイクを使用しないときは、入力切換スイッチを「MIC」以外に設定するか、PLAY/REC切換スイッチをPLAY側にしてください。	−
• ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。	P15
音が小さすぎる	
• フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーの場合は、入力切換スイッチを「PHONO」にしてください。	P19
音が大きすぎる	
• レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵なのに入力切換スイッチが「PHONO」になっていないか、お確かめください。フォノイコライザー内蔵のプレーヤーの場合は「LINE」で使用してください。	P19

USB接続したとき

USB接続したとき	参照ページ
パソコンがSE-U33GXVを認識しない	
• USBケーブルを通じて本機をパソコンに確実に接続してください。	P10
• ハブに問題がある場合があります。パソコンのUSBポートに直接接続することをお勧めしますが、ハブを経由して接続する場合は、ハブが動作しているかどうかをハブの取扱説明書にしたがって確認してください。	−
• USBケーブルを抜き、15秒ほど待ってもう一度接続してみてください。システムが不安定になっている場合は再起動を試してください。	−
音声が出ない	
• ボリュームコントロールを開き、ミュートのチェックを外します。DigiOnSound5 L.E.をご使用の場合は、ミキサーコントロール画面で調整します。	P13、14、37
• 出力レベルが小さくなっています。ボリュームコントロールを開き、ボリュームをすべて最大値に設定します。DigiOnSound5 L.E.をご使用の場合は、ミキサーコントロール画面で調整します。	P13、14、37
• 他の音声出力デバイスになっていないか確認してください。	P13、14
• 外部アンプまたはスピーカーに問題があります。OUTPUT端子から外部アンプやアンプ内蔵スピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。	P15
INPUTスイッチを切り換えたときにパソコンが不安定になる	
• INPUTスイッチを切り換えるときは、音声出力を停止してください。	−
• USBインジケーターが点滅しているときは、PLAY/RECスイッチを「PLAY」にしてください。マイクの音声を同時に使いたいときは、PLAY/REC切換スイッチを「REC」にして入力切換スイッチをMICのまま、USBケーブルを一度抜き、数秒待ってから再度差し込んでください（USBインジケーターが青色に点灯します）。	−
左右の音量バランスがかたよっている	
• 再生しているソフトウェアのボリュームコントロール等で、バランスを調整してください。	−
パソコンの内蔵スピーカーから音が出ない	
• USBオーディオデバイスが優先されているため、内蔵スピーカーからは音声が出力されません。内蔵スピーカーから一時的に音声を出力させるためには、本機からUSBケーブルを抜いてください。内蔵スピーカーのご使用後はUSBケーブルを再度接続してください。	−

困ったときは

	参照ページ
CD-ROMドライブからの音声が出力されない	
• CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない場合、USB経由ではCD-ROMドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をSE-U33GXVのINPUT端子に接続し、音量を適当な値に調節してください。	–
ゲームのBGMが出力されない	
• BGMにCD出力が使用されている場合、上記の「CD-ROMドライブからの音声が出力されない」の項目を参照してください。	–
音が途切れる	
• 音声出力、入力中にCPUに負担のかかる作業を行っている場合は、控えてください。	–
• 音声の再生中に他のUSB機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。	–
• CPUが推奨スペック（→10ページ）を満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でも、CPUが非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください。	–

録音

録音ができない	
• 外部からINPUT端子に確実に接続してください。外部機器に問題がない場合はケーブルを確認してください。	P15、16
• 外部機器から音声が出力されているか確認してください。	–
• INPUT LEVELつまみで入力レベルを調整してください。	P37
• レコードプレーヤーからの音が小さすぎる場合は、入力切換スイッチが「PHONO」になっているかお確かめください。	P16
マイクからパソコンへの録音ができない	
• ミニプラグのマイクをご使用ください。また、確実に接続されているかご確認ください。	P17
• INPUT LEVELつまみで入力レベルを調整してください。	P37
• 入力切換スイッチを「MIC」に合わせてください。	P17

保存

WMA9 Professionalへ書き出しができない	
• WMA9 Professionalの量子化ビットは24ビットとなっています。DigiOnSound5 L.E.が対応する量子化ビットは8ビット、16ビットのため、DigiOnSound5 L.E.の仕様によりWMA9 Professionalへの書き出しを行えません。	–

製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、USBケーブルを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　SE-U33GXV
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

お客様ご相談窓口

電話でのお問い合わせ：

オンキヨーコールセンター
ご購入相談、機能・取り扱い相談窓口

電話番号 ： 050-3161-9555
・受付時間 ： 月〜金曜日　10:00 〜 18:00
（土・日・祝日・弊社の定める休業日を除きます）

メールフォームによるお問い合わせ：
http://www.jp.onkyo.com/wavio/support/index.htm にアクセスして必要フォームに記入後送信ください。

製品に関する最新情報などは：
Web アドレス情報
http://www.jp.onkyo.com/wavio/
をご参照ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　月　日
ご購入店名：
Tel.　　（　）
メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間 10：00〜18：00
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

ONKYO
HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/

Printed in Japan
Y0809-1

SN 29344883

* 2 9 3 4 4 8 8 3 *